

世界初!

ATP+ADP+AMPふき取り検査(A3法) ～洗浄(清拭)評価に有効なわけ～



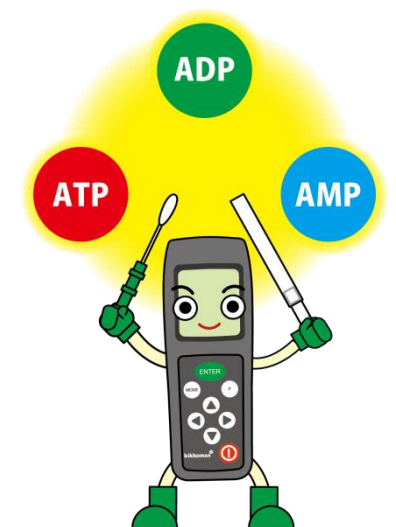
1. 汚れの指標に最適なATP、ADP、AMP

2. ATP+ADP+AMP量と細菌数との関係

～細菌数も制御できる環境をつくる～

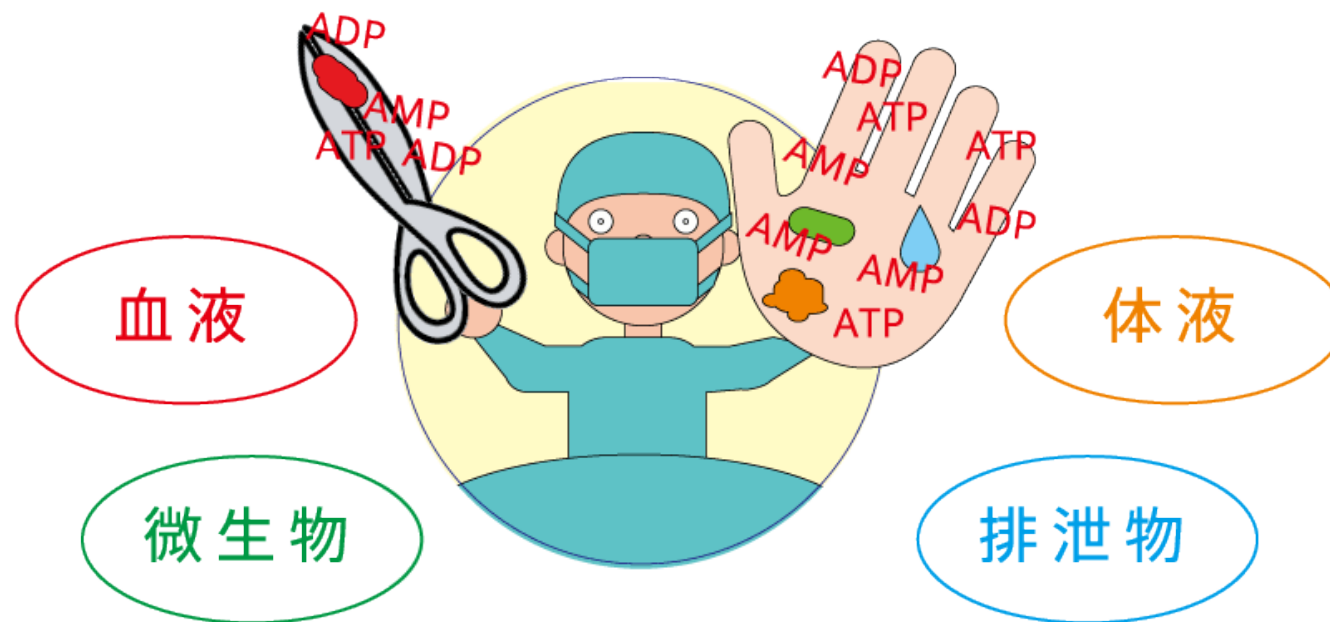
3. プラスADP+AMPの優位性

～医療現場でも！食品現場でも！～



ATP (アデノシン三リン酸) ADP (アデノシン二リン酸) AMP (アデノシン一リン酸)

ヒト由来の汚れや微生物等に含まれる3つの物質

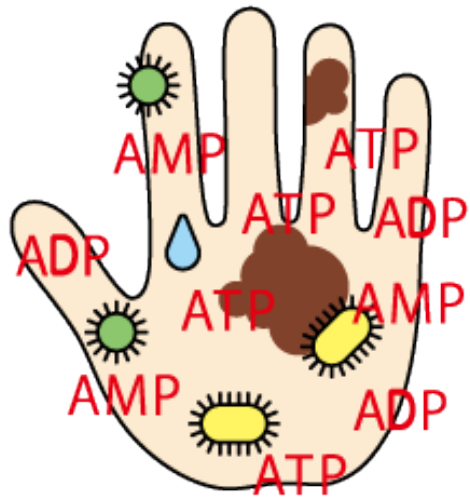


血液、リンパ液、消化液、唾液、汗などの体液、排泄物、分泌液、組織片、微生物などに含まれる

ATP+ADP+AMP量で洗浄（清拭）評価ができる

ATP+ADP+AMP 量が多い

ATP+ADP+AMP 量が少ない



手洗い前

*汚れが多くあることがわかる



手洗い後

*汚れが少ないことがわかる

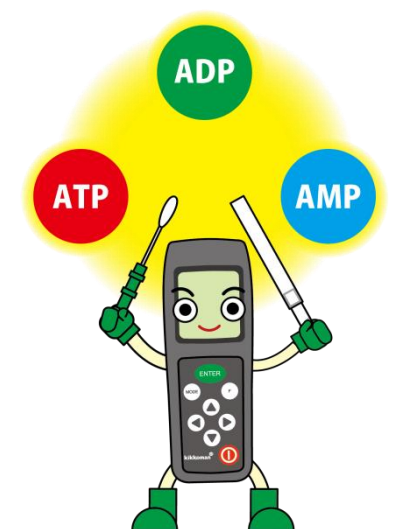
1. 汚れの指標に最適なATP、ADP、AMP

2. ATP+ADP+AMP量と細菌数との関係

～細菌数も制御できる環境をつくる～

3. プラスADP+AMPの優位性

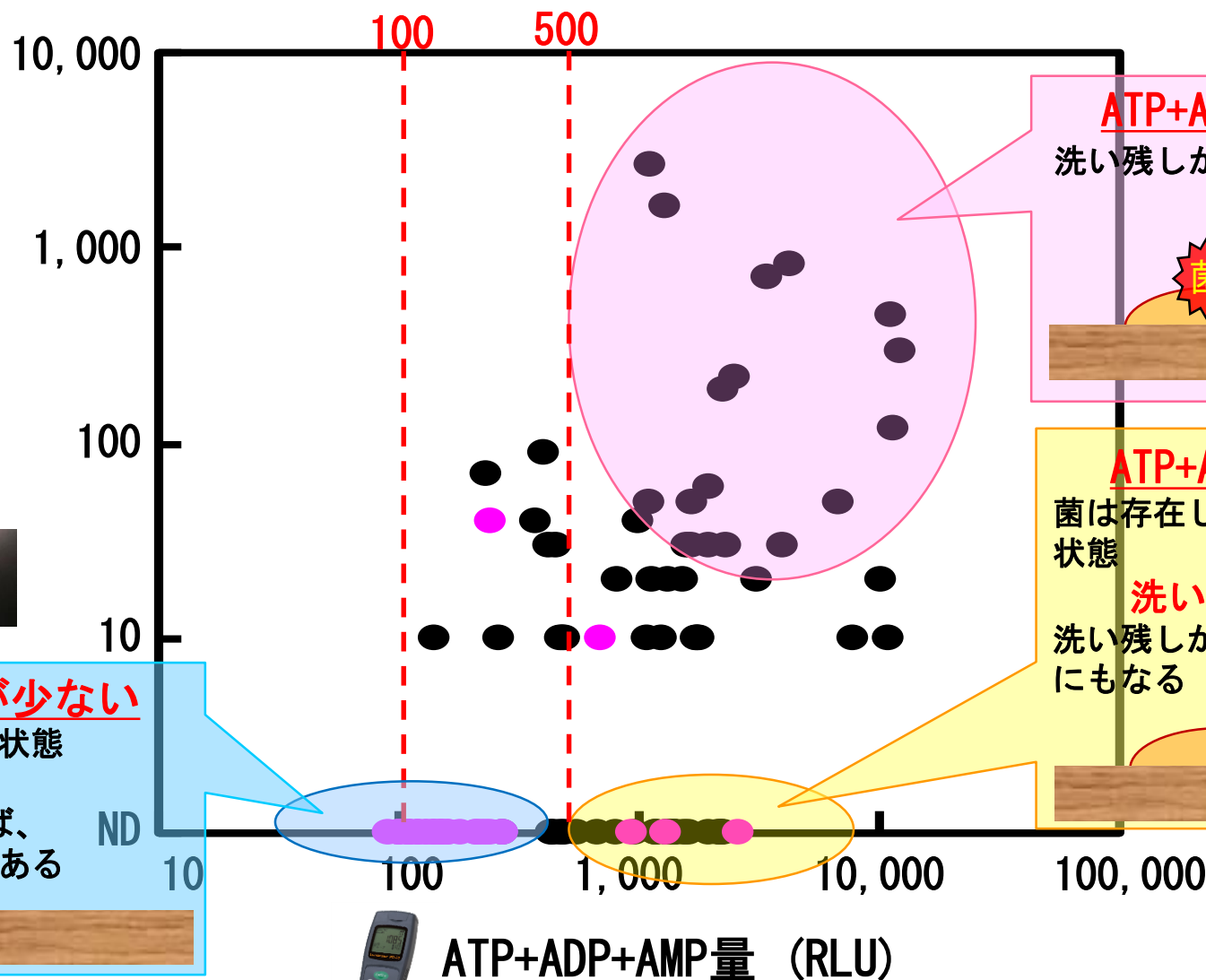
～医療現場でも！食品現場でも！～



ATP+ADP+AMP量で細菌数を制御できる環境がわかる

● 清拭前
● 清拭後

一般細菌数 (cfu)



ATP+ADP+AMP量が少ない

洗い残しも菌も少ない状態

ATP+AMP量が少なければ、細菌数も少ない傾向にある

検査場所

ATP+ADP+AMP量が多い

洗い残しが多く、菌も存在する状態



ATP+ADP+AMP量が多い

菌は存在しないが、洗い残しが多い状態

洗い残し = 菌の栄養分

洗い残しが多いと、菌が繁殖する原因にもなる



ATP+ADP+AMP量 (RLU)

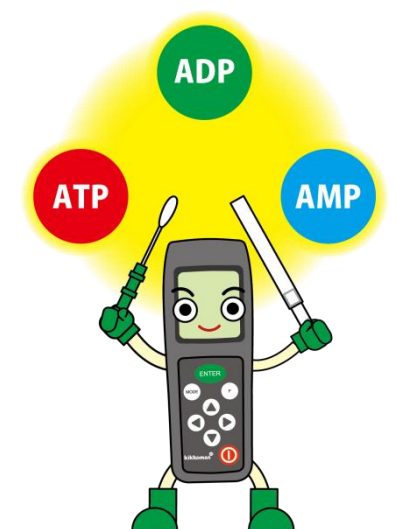
1. 汚れの指標に最適なATP、ADP、AMP

2. ATP+ADP+AMP量と細菌数との関係

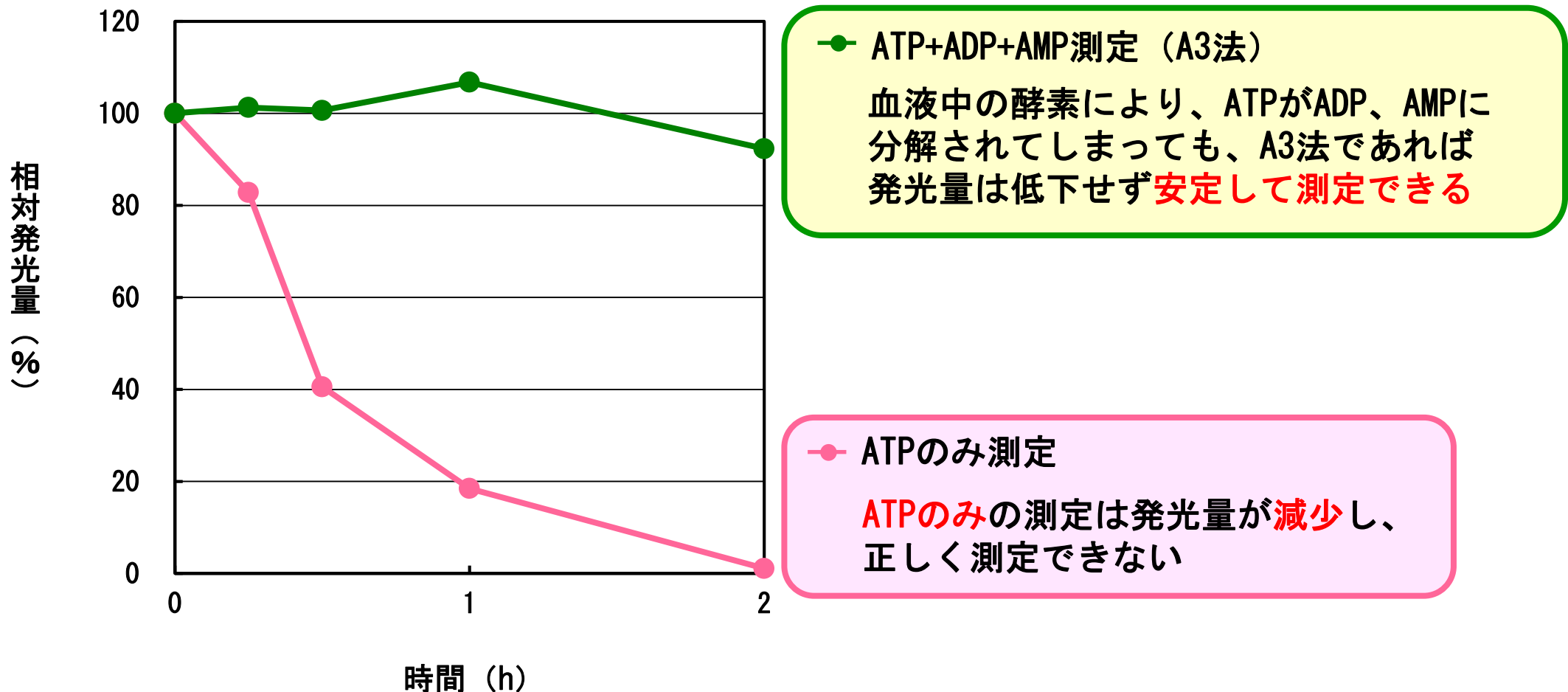
～細菌数も制御できる環境をつくる～

3. プラスADP+AMPの優位性

～医療現場でも！食品現場でも！～



溶血によるATP → ADP、AMPへの分解



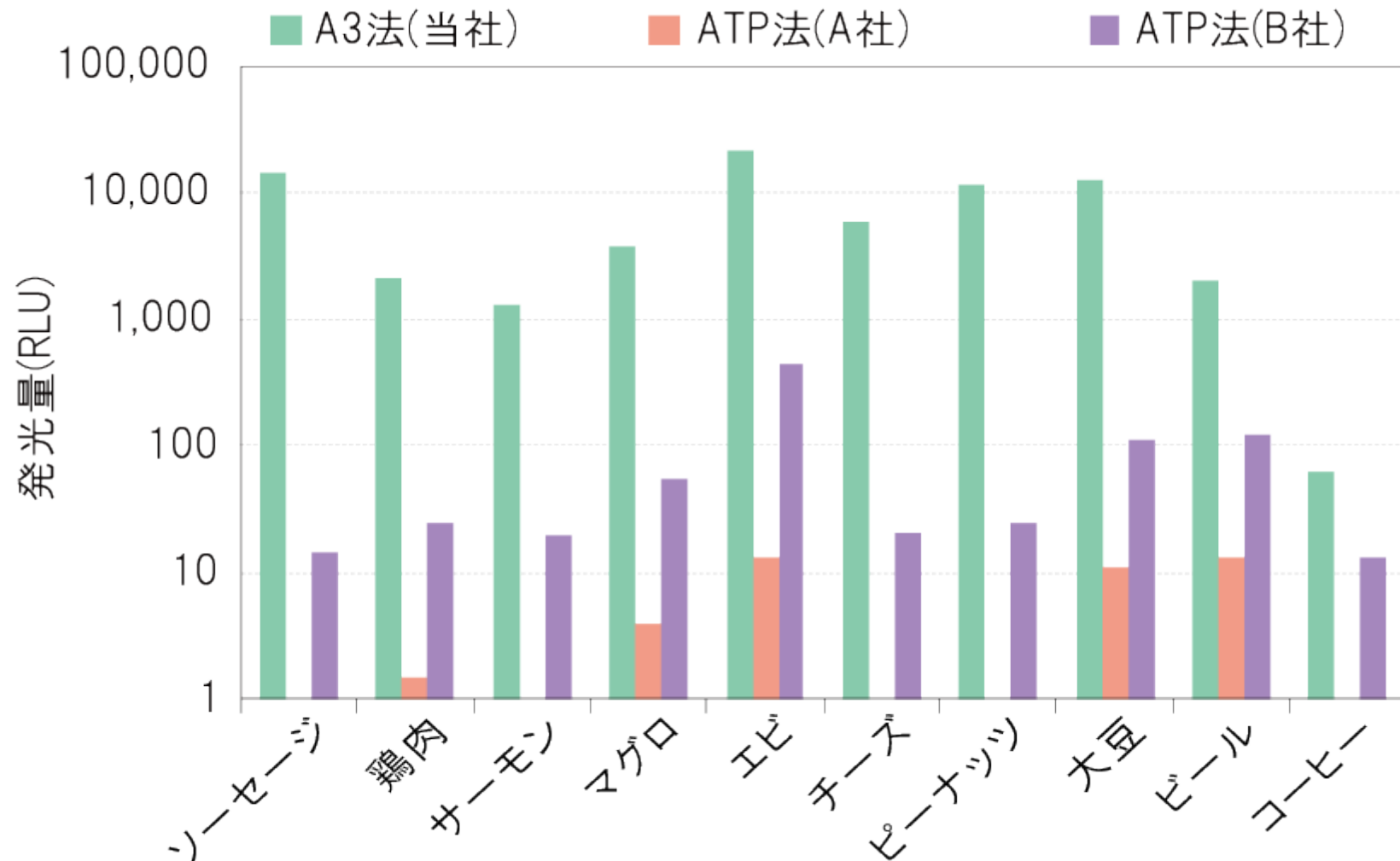
血液を滅菌超純水で10倍希釈して溶血させたものを35°Cで保温した。保温した血液を経時的にサンプリングし、10倍希釈したものをルシパック A3 Surface (ATP+ADP+AMP測定) の綿棒に添加し、ルミテスターPD-30で発光量を測定した。

同じサンプルを同様の方法でルシパックⅡ (ATPのみ測定) の綿棒に添加し、ルミテスターC-110で発光量を測定した。

血液と滅菌超純水の混合後0分の発光量を100%として、相対発光量の経時変化をグラフに示した。

食品産業でもA3法は重要とされている

他社製品との比較データ（感度の違いは明らか）



感染対策として、洗淨（清拭）作業は極めて重要

- ATP、ADP、AMPは医療現場のあらゆる汚れに存在するので、汚れの指標として最適である。
- 菌だけではなく、菌の栄養源となる洗い残し、拭き残しまでチェックすることで、菌を増殖させない環境を作れる。
- プラスADP、AMP測定により、高感度で正確に汚れを確認できる。

以上

